

0670 | 彫塑 IV

2 単位（面接授業 2 単位）

伊藤誠教授、黒川弘毅教授、戸谷成雄教授

授業の概要と目標

素材：型＝木材 作品＝石膏

モチーフ：任意で設定（例：当日の持ち物などで「現物」であること）

「空間」や「型」をテーマとした学習。

はじめに木材による型を造形し、のちに石膏をキャスト（注型）して作品を制作する。制作から作品展示までの過程をとおして、どのように空間が生まれるのかを体験し、立体表現を追及する。

課題の概要

私たちの身のまわりの物事をいつもとは違う視点（雄型「内側」と雌型「外側」の関係として）で捉えてみましょう。例えば木の実と殻、たい焼きとたい焼き器、プラスチックの工業製品と鋳型、木版画と版木、着衣したときの衣服（靴、手袋、帽子等も）、握手したときのお互いの接点、自分とそのまわりの空気など様々な事象が挙げられます。このような視点は普段あまり意識されませんが、内側と外側を感じたり、なぞったりする触覚的な要素は彫刻制作において重要な一面を持っています。今回はこの殻や版、空気などに相当する外側の「型」を手掛かりとした彫刻を制作します。

今回の課題は身の回りの物をモチーフとします。制作は、いきなり木材を使用して外側の「型」を組み立てるところからスタートします。これは、さかさまの造形ともいえます。最後に組みあがった「型」＝「空間」のなかに石膏を流し込みまたは張込み充滿させます。そして「型」を解体して作品（内側のかたち）を取り出します。

ここでは、「型」の制作に多くの時間を費やします。想定した見えない彫刻を手探りで組立てることや、木材という不自由な素材は困難が伴いますが、そのような制約によって思いがけない立体物の出現に驚きを覚えることとなるでしょう。最後に展示形式で講評を行い、作品と場の問題についても議論します。

授業計画

[面接授業]

第1日 午前：オリエンテーション 午後：技法説明

第2日 午前・午後：制作

第3日 午前・午後：制作

第4日 午前・午後：制作

第5日 午前・午後：制作

第6日 午前：清掃・展示 午後：講評

成績評価の方法

出席の状況を確認しながら、提出し展示された作品の内容を担当教員と講師により合議のうえ、採点評価を定める。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 2～4年次

[履修条件] 「造形基礎Ⅰ～Ⅳ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること（3年次編入学生を除く）。

[備考] なし

教材等

教材は実習時に配布する。道具は実習時に指示する。

モチーフについての詳細は授業初日に説明し、話し合いながら決定します。モチーフは、当日の持ち物や教室内の物のなかから決定します。とくに作ってみたいモチーフがある場合は初日までに持参してください（複数可）。ものは自由ですが3～4日継続して観察できるものが望ましいです。